

アメリカとその従僕たちは世界の人々を侮辱する

【訳者注】「彼ら」の狂気は、人を人とも思わぬ、侮辱の形を取るのが一つのパターンである。私はこれを「愚弄」という言葉で説明したことがある。彼らはアレッポ包囲戦でもこの手を使い、その延長で、国連人権理事会に、最もその資格のないサウジアラビアを引き入れ、最も不可欠のロシアを追い出すという、世界と「普通の人間の知性」(p.4)を侮辱(愚弄)する挙に出た。

彼らの手口をわかり易く説明すればこうなる——大勢の痴漢どもが一人の女性に暴行を加えようとしていた。そこへ一人の勇敢な男が止めに入った。すると、痴漢どもはずうずうしくも、この男こそ痴漢だと言って、メディアを使い、国連を使って、自分の罪をもって相手を責める挙に出た。<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/160920.pdf> 参照。

「卑劣」という感覚のないのが彼らの特徴だが、これは人類に対する意識的な愚弄である。愚弄の別の例として、イラク戦争で、最も多くの子供を殺した戦犯とされる、元英首相トニー・ブレアに、子供の人権団体「セイブ・ザ・チルドレン」から功労賞が贈られるという、信じられないことがあった。このときは、さすがに人々から抗議が殺到し、謝罪はされたが取り消されはしなかった。参考文献——

<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/150304.pdf>

<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/141130.pdf>

イエメンについては何も付け加えることはない。ただ、これほどの大規模な残酷が、放置されているという現状に驚くよりほかはない。

Finian Cunningham

November 3, 2016, Information Clearing House



そしてワシントンが侮辱するのはロシアだけではない——世界全体である。これがアメリカのリーダーたちと、彼らの仲間の国際的ネットワークの転倒した偽善である。

アメリカの顧客であるサウジアラビア——世界で最も抑圧する国家——が、今週末、国連人権理事会の議席を与えられ、代わってロシアが追い出されたことは、多くのその露骨な侮辱の一例である。

ロシアの外相ラヴロフは、米高官やその西側同盟国がロシアを侮辱し、シリアへ軍事介入するのは“野蛮”で“戦争犯罪”だと非難した、と言っていた。

<http://tass.com/politics/909698>

しかし、シリアについて、ワシントンがモスクワに向ける、こうした証拠もないヒステリックな攻撃は、過去何年かにわたって、何ダースもの国で、大規模な戦争犯罪を行ってきたアメリカとその同盟国にこそ、向けられるべきものであることが証明されている。その犯罪は説明されないままだ。

ラヴロフは、特に前ユーゴスラビアの場合を引証した。そこでは、1999年、アメリカの主導する NATO の軍用機が、公共のインフラ設備への空爆によって、数千人の市民を殺した。それ以来、国際法を堂々と破ってワシントンの仕掛ける、不法な外国での戦争はますます増え、何百万という死者を出している。

現在、米軍は、イラク、シリア、イエメンをはじめ、7か国を爆撃しており、ほとんど連日、何人かの市民が死んでいる。しかし、アメリカとその西側の子分たちは、ロシアが軍事行動によって、米主導のひそかな政権転覆戦争からシリアを救おうとしているのを、ふてぶてしくも非難しているのである。アメリカが 2011 年 3 月以降、シリアで隠れた犯罪的戦争を指揮し、何百万というシリア人の人権を踏みにじっていることは衝撃的な事実だが、ただ奴隷的な西側のメディアだけがこれを隠し続けている。

先週、ロシアを悪魔化しようとする西側のプロパガンダ・キャンペーンが、国連人権理事会 (UNHRC) からロシアを落とすことによって、疑わしい“勝利”を得た。この動きは、ロシアの空爆が、北シリアの都市アレッポの市民を無差別に攻撃している、と主張するメディアの世論操作から可能になった。

ロシア（とシリア）の飛行機が、戦争で破壊されたこの都市で、人道的な救援を容易にするために、アレッポ周辺で 2 週間近く、戦闘行動を停止していたという事実など、彼らの知ったことではない。これらの救援行動が、東アレッポで過去 4 年間、包囲下にあった市民たちを拘束する外国援助のテロリスト集団によって、絶えず妨害されてきたことなど、彼らの知ったことではない。

過去一年の、ロシアのシリアへの軍事介入のおかげで、シリア政府は、外国に援助された傭兵の押し付ける恐怖政治から、何百という町や村を解放することができた。この者たちのすべてが、国際的に無法者とされたテロリスト集団、イスラム国やヌスラ・フロントの、ネッ

トワークに組み込まれている。そういったことは何一つ、西側やそれに隷従するメディアが取り上げることなく、その代わりに彼らは、テロリスト・スポンサーたちによってロシアに向けられた疑わしい非難を増幅することによって、現実を逆さにしている。

このアレッポ奪還戦は、この国を壊して、選挙によるアサド政権を西側寄りの傀儡政権にすげ替えようと企む、米主導の犯罪的謀略から、シリアを解放しようとする目的に完全に合致している。

今週末にかけて、西側メディアは、「反政府軍がアサド政府のアレッポ包囲を破った」という言い方によって、信用性を細工した。これら、いわゆる反政府軍とは、アルカーイダに繋がるテロリスト、ヌスラ・フロントや、その枝分かれした多数の分派、アフラル・アルシャムとかジャイシュ・アルファタ、にほかならない。この都市を包囲しているのは、シリア軍とそのロシア援軍ではない。それはテロリストたちである。そして週末にかけて、彼らの砲撃によって、政府の占領する西アレッポの、14 人の子供を含む数ダースの市民が殺される結果になったのである。

卑劣な一方寄りの西側メディアでさえ、テロリスト“反政府軍”によるこの虐殺を隠すことはできなかった。彼らは、2011 年以来シリアで、アメリカとその同盟国が、カネ、武器、そして訓練を与えて、彼らの地政学的使命を達成しようとしてきたテロリストである。

一方、隣国のイラクでは、英、仏、トルコを含む米連合軍が、モスル市を爆撃し続けていて、表面上その目的は、人間の盾として一般市民を捕えている過激派を打ち負かすことである。しかしこの過激派は、アメリカとその同盟国が、シリアの隣でひそかに支援してきた者たちである。米主導のモスル空爆は、この攻撃が 10 月 17 日に始まって以来、重大な量の市民の死傷者を出していると、地方のソースは報じている。

<https://www.mintpressnews.com/us-warplane-attacked-school-near-iraqi-mosul-casualties-reported/221885/>

今週末、別の場所では、サウジの軍用機が、米・英・仏に支援されて、人類に対するさらに多くの罪を犯した。ほぼ 1 万の人々が、サウジ同盟が 2015 年 3 月に、この地方の最も貧しい、この国を爆撃し始めて以来、殺されている。紅海の湾港都市ホデイダの空襲では、サウジの飛行機が、刑務所を爆撃し、60 人以上の収監者と保安職員を殺した。それは、市民の施設に対するこのような残酷な連続攻撃の最も新しい例で、病院、学校、市場、モスク、家族の家、葬儀場まで含まれている。

先週の国連機関の報告によると、イエメンの人口 2,400 万の半数近くが、餓死に直面してい

る。赤痢やコレラに冒された、骸骨のような子供たちの写真を見ることができる。この野蛮な、一国全体の苦しみは、サウジ政権とその西側のパトロンが、この国に対して海空、両方の補給をブロックしたことから起こっている。こう言っても誇張ではない——イエメンの国家全体の人民が投獄され、女性や子供たちが吹き飛ばされバラバラになっても、何の良心も呵責ももたない者たちによって、繰り返し繰り返し爆撃されている。

米・英・仏の軍事援助がなければ、イエメンにおけるサウジの殺戮は直ちになくなるだろう。イランが、フーシ (Houthi) 反乱軍を支援することで、イエメンを破壊しようとしているという、西側の支持するサウジの主張は、全く馬鹿々々しい口実である。ワシントンとその顧客たちがイエメンを滅ぼそうとするのは、彼らが、石油の豊かなこの地域で、民衆の純粋に民主主義的な運動が起こるのに我慢ができないからである。ここは彼らには重要な土地で、サウジアラビアや他の湾岸の君主独裁制のような、独裁的なアラブの支配を通じて、アメリカの覇権を保証するものでなければならないのだ。

ロシアが、国連人権理事会で制裁を受けた同じ週末に、国家スポンサーによる、もう一つの血なまぐさい、狂気のテロ事件が起こったが、それはアメリカとその同盟国が、手下の傭兵を使って起こしたものだ。米、英、仏、それにサウジアラビアは、ジュネーブに本部のある人権評議会の 47 の国家代表の中に入っている。サウジの封建主義的君主制は、“魔法使い”や他の犯罪で有罪となった者を、公開斬首によって処刑し、女性が車を運転することを禁じているが、この国が国連人権理事会に議席を得たのは、イギリスの投票操作によるものだった。 <http://www.mintpressnews.com/gruesome-execution-warrant-casts-light-saudi-death-penalty/221747/>
<http://www.dailymail.co.uk/news/article-3254073/UK-did-secret-Saudi-deal-human-rights-Cables-allege-Britain-approached-Gulf-State-vote-trade-support-s-election-council.html>

ワシントンと、そのならず者国家パートナーによる、テロリストを使ったシリア侵略に反対したロシアは、さまざまな違反を犯したという口実で、制裁の対象になったのである。

この非難が侮辱であるのは、それが正義を逆さまにした笑劇だからというだけではない。それは、アメリカとその共犯者の、とんでもないウソを見抜くことができる、普通の知性に対する侮辱である。

ワシントンと他の西側政府による、この完全な支離滅裂と欺瞞は、時には一部の人々を騙せるかもしれない。しかし時が経てば、そのような腐ったやり方は失敗する。高位の者たちの犯罪に対する、普通の人々の間の動揺と怒りと軽蔑は、アメリカ、ヨーロッパ、そして世界

を通じて、沸騰点に達しつつある。

これら不法な支配者たちが、自分の存在と犯罪的企てを正当化しようとするほど、それは普通の人間の知性に逆らうものとなる。

ロシアが、ワシントンとその従僕国による、公開された侮辱に傷つくのは当然である。しかし、グロテスクに傷つけられているのは、決してロシアだけではない。全世界が、盗賊、搾取者、テロ支援者どもの、国際的な寡頭政治にこれまでずっと耐えてきたことによって、ひどく傷ついている。これまではそうだった。